



# とっばずれ



銚子東ロータリー・クラブ Weekly Bulletin NO. 2031



2013.10.22

庭の木 提供：宮内 宗一 会員

第2031回 例会 平成25年11月26日

\*\*\*\*\*

点 鐘 … 宮内 博 会長

ロータリーソング … 手に手つないで

来訪ロータリアン紹介

… 親睦活動・家族委員会

会 長 挨拶 … 宮内 博 会長

御 祝 披露 … 宮内 博 会長

誕 生 祝 … 石上 明宏 会員(11月25日)

結婚記念日 … 石毛 園子 会員(11月22日)

石上 明宏 会員(11月24日)

堀 猛 会員(11月24日)

入会記念日 … 佐野 幸雄 会員(11月20日)

幹 事 報 告 … 釜谷 藤男 幹事

ニコニコBOX … 親睦活動・家族委員会

卓 話

「フィリピンダバオ支援活動報告」

銚子RC 信太 秀紀 会員

高橋 宏資 会員

宮内 秀章 会員他

出 席 報 告 … 出席・プログラム委員会

来週のプロプログラム (平成25年12月3日)

\*\*\*\*\*

卓 話

「未定」銚子警察署 署長 鈴木 英夫 氏

お食事「膳」



**ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES**

ロータリーを 実践し みんなに豊かな人生を

2013~2014 年度 RI 会長 ロンド. バートン

第 2030 回例会(平成 25 年 11 月 19 日)

## 会長挨拶

宮内 博

ロータリーに職業奉仕の概念を導入したアーサー・フレデリック・シェルドンは、1921年に行った「ロータリー哲学」という表題のスピーチの中で、われわれの職業は、金儲けをする手段ではなく、その職業を通じて社会に奉仕するために存在すると述べています。現実にはありえないとしても、パン屋、洋服屋、米屋、銀行と、どんな職業であっても、ある日突然その職業を営む人が全員いなくなったとしたら、社会の人々は大いに困るに違いありません。そういう事態を迎えて初めて、すべての職業は社会に奉仕するために存在することが判るのかも知れません。

ロータリーでは社会に奉仕するための事業を実業と定義しています。ほとんどの事業は程度の差こそあれ社会に貢献していますから実業です。

これに対して社会には全く貢献せず、自分が儲けることのみを第一義に考える事業は虚業だと言えるでしょう。なお例え実業であっても、社会に奉仕することを忘れて、自分の利益を優先した企業経営を行えば、その企業の将来は必ず不幸な末路をたどるはずで

す。事業主は実業であると信じていたかも知れませんが、明らかに虚業である幾つかの企業が起こした不祥事が2006年前後に多く報道されて世間を騒がせました。例をあげますと2005年耐震偽装事件、2006年ライブドア事件、2007年ミートホープ牛肉偽装、船場吉兆などがありました。そして最近にわかにはブランドのホテル、レストラン、さらに百貨店まで虚偽表示が取り沙汰されています。過ちは忘れた頃に繰り返されます。我々も知らず知らずに実業から虚業になる危険性は大きいにあります。

シェルドンの職業奉仕理念によりますと、自らが儲けるために職業に就いているという考えを捨てて、顧客の満足度を最優先しつつ、自らの職業を通じて他人に奉仕をするという考えで事業を営めば、その真摯な態度が顧客の心を捉えて、リピーターとして何度も事業所を訪れてくれますし、新規の顧客を紹介してくれるはずで

す。その結果、適正な利潤が得られるとともに、その事業所は継続的に発展していきます。そして、そのような事業所は結果として高い職業倫理を持っているはずで

す。職業奉仕は職業倫理を高揚することではなく、職業奉仕の実践が結果として高い職業倫理につながるのです。改めてシェルドンの言葉をかみ締めて、今一度、我々も襟を正したいと思います。

## 幹事報告

### 1・ガバナー事務所より

- ・フィリピン台風災害支援について
- ・日台ロータリー親善会議ご案内
- ・藤川享胤氏「講演会+フォーラム」登録のお願い
- ・地区大会お礼

受領

### 2・ロータリー米山記念奨学会より

- ・ハイライトよねやま 164

・特別寄付金明細書送付の件

受領

☆週報受領 八日市場RC

## 卓 話

「全員が経営者」

大衆日報社・編集部 須藤 栄一郎 氏

私が職場としていた「常陽新聞新社」が今年(2013年)の8月31日の発行をもって、65年の歴史に幕を閉じました。破産してしまっただけです。地域・社会から消え去ってしまったのです。長年、新聞社を支えて下さった株主、社員、読者、広告主・クライアント、販売店等、地域の信頼を裏切ってしまった。三度目の正直ではないですが、三度目の倒産騒ぎで会社が地域社会から消えてしまいました。お金を注ぎ込んだ地域の有力者から見放されてしまった、と言っても過言ではないでしょう！残念でなりません！



原因は何だったのでしょうか？私が推測するに、「何のために新聞を発行するのか？」という、編集方針、経営理念が欠如していたとしか思えないのです。それは、「世のため、人のために、地域のために新聞を発行する」「地域に元気と希望の情報を届ける」という、方針・理念が欠如していたからではないかと思うのです。

一回目の倒産騒ぎは、1985年(昭和60年)のつくば科学万博開催の年でした。当時の役員が勝手に事業計画を作成、役員会の書類を偽造、万博用の宿泊事業を始めてしまったのです。事業は失敗。会社は借金返済が出来ず、倒産。その後、銀行管理となり会社再建。しかし、平成15年、負債総額7億円で再び債務超過に陥り、今度は清算し、新会社を設立し再スタート。しかし、10年後の今年、1億2000万円の負債を抱え込み、三度目の倒産。支援者は現れず、地域・社会に貢献出来なかった地域メディアは、消滅してしまいました。私が恐れていた事が事実となってしまいました。残念でなりません。

私が「全員が経営者」を考えるようになったのは、1979年(昭和54年)10月、常陽新聞社に入社してからです。その前は、フジ新聞社の編集アルバイトを経験。新聞社の経営機構を学びました。編集部、制作部、校閲部、営業部、販売部など新聞発行のシステムです。そして大学卒業後は東京の「日報」という業界紙を発行している会社に就職。編集部・取材記者から営業部に転属になり、広告営業の企画に携わりました。この時、広告営業の仕方を学びました。記事だけでも新聞の経営は成り立たない。広告営業でクライアントから収入を得ることも、新聞経営には大切な仕事なんだ、という事を身を持って知りました。その後、結婚を機に体力の限界を感じ、土浦から東京へ通勤することを止めて、1979年10月、常陽新聞社に入社し、新聞記者になりました。しかし、薄給でした。そのために、記者活動の他に広告営業の歩合で



稼いでいました。今まで培ってきた経験が生かされました。地方の新聞社は、記者の仕事の他に広告営業もしなければ、給料をアップする手段はありませんでした。この時代に、今まで経験してきたことが活かされました。この常陽新聞社時代に「経営者の感覚で仕事をするのが大事」ということを学びました。

倒産劇のあった入社6年後の1985年（昭和60年）頃から「自分が社長だったらどういった記事を掲載し、どのような広告営業をし、収入を増加させることができるのか」を、常に考えて仕事をするようになりました。当時、常陽新聞社では日刊紙の他に、週刊のフリーペーパーを発行していました。当時の野沢忍・副社長から「フリーペーパーの常陽リビングの担当」を指示されました。もちろん、日刊紙の記事も書きながらの担当です。そして、倒産劇を境に、私は日刊紙の常陽新聞に出稿していた取材記事を常陽リビングに集中させ、紙面の充実を図ると共に、営業企画の推進も行い、常陽リビングを週刊新聞的な紙面に変えました。そして、日刊紙に掲載していた記事を止めて、取材活動をフリーペーパーの常陽リビング一本に絞りました。

二回目の倒産劇の時、救ってくれたのが、東証2部上場の京葉ガスさんで、常陽新聞は常陽リビング社の株式を京葉ガスに譲渡し、その現金の注入で再起を目指しました。その時私は常陽新聞社を退職し、常陽リビング社の取締役営業部長の役をしていました。その時代に常陽リビング社内に徹底したのは「取材記者は全員広告営業をする。取材記者が記事も書き、営業もし、集金も担当する。そして紙面の充実を図り、元気の出る希望もてる情報を発信し、地域を元気にする」。そのために「全員が経営者」の思いで、業務に取り組む事でした。

社内改革も断行しました。老練の権力的で命令口調だった編集長の古い編集態度を変革するために「夜の勉強会」を開催。編集・営業・制作全員のメンバーが参加してきました。もちろん、編集長の決意を得ての開催です。当然、編集長も参加です。その結果、あらゆるアイデアが飛び出し、熱気と若さに圧倒された編集長は、一回の出席で「あとは皆に任ず」といってその後は出席しませんでした。当然、老練の編集長の弊害が取り除かれ、「夜の勉強会」は全員参加の編集会議と化し、そこで練られた企画案を老練の編集長が採用し、紙面が制作されるようになりました。「全員参加の編集会議」が確立されたのです。

古い紙面は一新され、若々しく生き生きした紙面は、多くの読者の共感を得て、広告の反響も格段に増加し、広告が増えてページ数も8ページから16ページ、20ページ、24ページとうなぎ登りに増え、会社の収益は毎年純利増加の一途。新社屋を建設し、常陽新聞社と決別しました。その後「地域メディア研究会」を自主的に開催。朝7時半から、月二回、金曜日に開催しました。狙いは「社員一人ひとりに地域の新聞、フリーペーパーなど、茨城県南部の地域メディアの全体像を把握させ、他媒体と比較検討し全体観に立った視点で業務に取り組み、地域のためになる紙面の発行を永続させる」ためでした。

つまり、社員一人ひとりに他社との違いを自覚させ、良い点は学び、当社の弱い点を改良し、強い点を伸ばすことにしたのです。これが「全員が経営者」という理念のスタートでした。

こうして、他の紙面を比較検討することで経営参加意識が活性化し、新たな編集企画や営業企画が次々に生まれ、紙面も30ページから32ページ、36ページ、40ページにも達するなど、収益力が各段にアップし毎年恒例の年末社員旅行を海外で行うまでに裕福になり、2度目の新社屋を建設するまでになりました。

こうして社員の気持ちの中に「自分の意見や考えが会社の発展に反映して、給料も上がるし、豊かな社員生活が実現している」という自覚が生まれ、「この会社の発展は私が支えているんだ!」という、息吹で満たされるようになったのです。つまり、「会社は私が動かせるんだ!」という意識の確立です。私の目指した「全員が経営者」の一端が実現したのです。もちろん会社組織ですから、上司の決意や許可は必須条件です。しかし「会社は私が動かしている」という自覚が社員の中にあれば、上司の決意は必ず得られると確信が待て、社員が喜んで仕事に向き合い、活気ある職場が出来上がるのです。

私が職場とする日刊紙「大衆日報」は、昭和8年3月4日の創刊で、今年の3月4日には創刊80周年を迎えました。地域新聞の役割は、地域の言論機関としての役割はもちろんですが、地域経済の発展とも密接に関係しています。購読数はやはり減少、スポンサーも減少し、なかなか厳しい経済環境にあります。そこで、私の責任で何とか活気づく会社にして、その結果、銚子の街を元気にしたい、と責任を感じながら日々、仕事との格闘を展開しています。もっと元気の出る紙面の展開を!もっと希望の持てる情報発信を!もっと若者が読める紙面の充実を!もっと銚子の商業の活性化につながる様な紙面の展開をしなれば!と、経営者のような思いで仕事に取り組んでいます。

「世のため、人のため、地域のために貢献できる仕事をする」。大衆日報も、銚子の繁栄の為、地域に役立つ新聞社として今後も「全員が経営者」の思いを持って、仕事をしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 米山功労者表彰

杉山正躬会員（2回目）「左」  
石井哲也会員（1回目）「中央」  
佐野幸雄会員（1回目）「右」



**第1回指名委員会**

日 時：平成 25 年 11 月 19 日（火）例会終了後  
議 題

- 1・次年度役員選出について

**第5回定例理事役員会**

日 時：平成 25 年 11 月 19 日（火）  
指名委員会終了後  
議 題

- 1・例会変更の件 承認  
変更 12月24日（火）年末家族会  
休会 12月31日（火）年末
- 2・12月例会スケジュールの件 承認
- 3・年末家族親睦会予算案の件 承認
- 4・次年度委員会構成及び細則変更の件 承認
- 5・理事及び役員候補者の件 承認
- 6・事務局一時金の件 承認
- 7・その他 一般会計報告（10/31 現在）

**12月例会スケジュール**

- 第1例会 12月3日  
卓話「未定」 銚子警察署 署長 鈴木 英夫 氏
- 第2例会 12月10日  
年次総会・四大奉仕委員長中間報告
- 第3例会 12月17日  
卓話「未定」 日色 茂夫 会員
- 第4例会 12月24日  
年末家族親睦会 「ニュー大新」
- 第5例会 12月31日 休会（年末）

**R情報勉強会・国際奉仕委員会**

日時：平成 25 年 11 月 19 日（火）18：30～  
会場：銚子プラザホテル



————ニコニコ————

**平野恭男君**

この度、全国民生委員・児童委員全国協議会より  
永年勤続で表彰されました。

**宮内宗一会員**

地区大会にて長寿ロータリアンとして表彰されま  
した。ありがとうございます。

**千葉科学大学RAC例会のお知らせ**

例会日：12月3日（火）点鐘 17：00  
例会場：マリーナキャンパス 2103 講義室  
\*是非ご参加ください。

**前回の例会（11/19）報告**

点 鐘 石井 哲也 副会長

**出席報告**

会員総数	42 名	出席規定除外数	8 名
出席者	26 名	出席率	66.67 %
11月5日		確定出席率	84.62 %

来訪ロータリアン なし

欠席者 13名

**メイクアップ**

網中君 藤崎君 平野君 堀君 石上君 石井君  
 釜谷君 狩野君 宮川君 (11/19 理事会)  
 網中君 藤崎君 星野君 石上君 石毛君 石井君  
 泉川君 狩野君 木村君 黒田君 宮内(勝)君  
 大木君 杉浦君 杉山君  
 (11/19R情報・国際奉仕委員会)

スモールコインBOX	小 計 ￥ 2,230-
	<b>累 計 ￥ 43,715-</b>
ニコニコBOX	小 計 ￥ 23,000-
	<b>累 計 ￥218,200-</b>

銚子東ロータリー・クラブ

銚子市三軒町19番地の4 銚子商工会館内 TEL0479(23)0750 FAX0479(25)8789  
メール [c-higashirc@tcs-net.ne.jp](mailto:c-higashirc@tcs-net.ne.jp) URL <http://www.tcs-net.ne.jp/~rc>

例会日時及会場 毎週火曜日 12時30分点鐘 銚子商工会館5階大会議室  
会長 宮内 博 副会長 石井 哲也 幹事 釜谷 藤男  
クラブ広報・会報委員会 宮内 勝利・佐野 幸雄・宮内 宗一・杉浦 武  
表紙題字 網中喜一郎初代会長

R. I 第2790地区

**ほととぎす 銚子は国の とっばずれ**

**古 帳 庵**

江戸小網町の豪商鈴木金兵衛夫婦（古帳庵 古帳女）が銚子に遊んだときに  
詠んだもので、この碑は圓福（円福）寺に現存する。